

# もっくん はぎ 萩の だい 台





1.

僕は樫の木。

この「萩の台」がある場所に数百年も前から住んでいたんだ。

ある日、この山の開発が始まって、僕は切られてしまった。

僕はどこかの木材所に連れて行かれて、製材されて、あるオモチャ会社に売りに出されたんだ。



2.

僕は、オモチャの人形「もっくん」として生まれ変わり、オモチャ屋さんで売られた。

買ってくれたのは、その時幼稚園に通っていた（

）君と（ ）ちゃんの兄弟がいる家だった。

僕はそこで、彼らの友だちみたいにして、何年も一緒に遊んだんだ。

でも（ ）君と（ ）ちゃんも次第に大きくなっていて、（ ）ちゃんが中学校に入った年に僕は、粗大ゴミと一緒に捨てられたんだ。





3.

僕は、他の粗大ゴミと一緒に、ゴミ収集所で、どこかの山の中の不燃物ばかりを捨てるところに連れて行かれた。そこに（20年間）も多くのゴミが捨てられて、どんどん溜まっていったんだ。

僕は心細くて怖かった。

ある日、ゴミが一杯になると、今度は上から土をかけられはじめた。

かけられた土をブルドーザーやローラー車で今度は固めたんだ。

僕たちはこれから、どうなるんだろう？





4.

僕たちは、土の中で何年もの時を過ごした。

僕たちの体は、どんどん土と同化しはじめた。

もちろんみんなが土になるわけではない。

石油で作られたプラスチックでできたものや、金属でできたものは土と一緒にすることはなく、そのままの形で土の中で残っているんだ。

僕はある日、完全に土と一緒になくなってしまった。

僕の体は分解されて、土の中に生えている木の根っこに吸い取られてしまったんだ。



5.

僕は木の根っこから吸い上げられて、葉っぱの栄養分として、今度は「萩」の木として生まれ変わったんだ。

久しぶりに地面の上に出て僕はびっくりした。

ここは昔、僕が住んでいた「萩の台」じゃないか！

今は、野球やサッカーやテニスができる、小さな子どもたちから、スポーツをする大人たちがみんなで楽しんでいるじゃないか！





6.

大きなわっかをグルッと回るように僕は、萩の台に戻ってきた。

粗大ゴミや不燃物のゴミ捨て場が今は立派な公園になっている。

トンボの住む池もあるし、新しい木や草がどんどん成長している。

みんなの生活で、ゴミを出さないようにするには、とても大変だと思うけど、こんな方法でゴミを回収して、新しい公園を作るという方法もあるんだね。

でも僕はみんなにいいたい、

できるだけ、モノを大切に、ゴミを増やさない生活を心がけて欲しいんだ。



7.

みんな、また「萩の台公園」に来たら、僕のことを思い出して欲しい。

自然と人間がどのように、上手に暮らしていけるか？

そしてモノを大切に作る心を思い出してほしいんだ。

新しいものを買って、古い物は捨てるのではなく、できるだけ繰り返し使って、なるべくゴミを出さない。

そんな気持ちをみんなに持って欲しいと思うんだ。